

専修学校で学ぶ留学生の 状況と日本就職の課題

東京工業大学
環境・社会理工学院
佐藤由利子

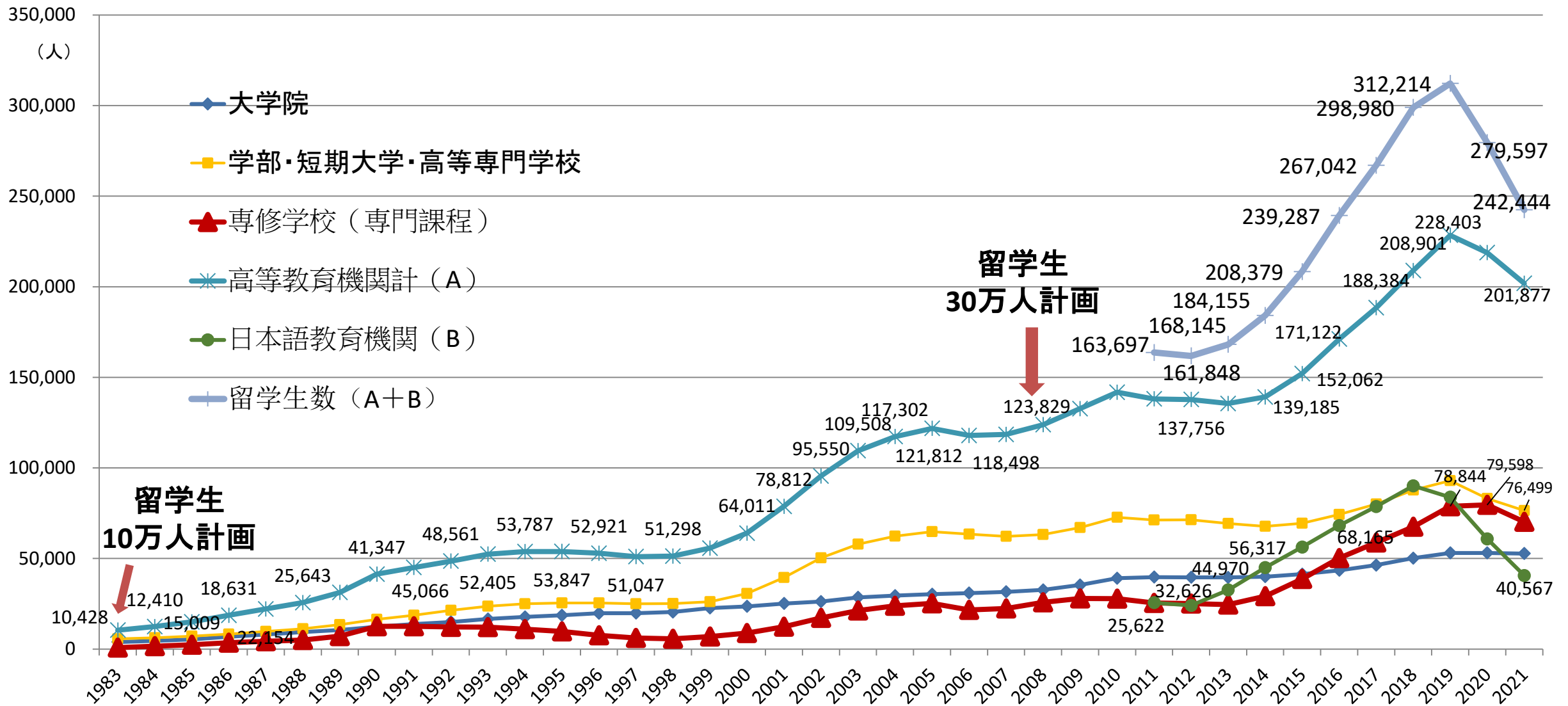


図1 日本で学ぶ外国人留学生数の推移（主な学種別）

出所：日本学生支援機構

専修学校留学生 27,914人（2008）⇒ 79,598人（2020）3.1倍に
 留学生に占める専修学校留学生の割合 15.6%（2011）⇒ 28.5%（2020）

表1 専修学校で学ぶ留学生の主な出身国

順位	2007年			2018年		
	出身国	留学生数	割合	出身国	留学生数	割合
1	中国	12,576	56.1%	ベトナム	25,533	37.8%
2	韓国	4,628	20.7%	中国	16,187	24.0%
3	台湾	1,369	6.1%	ネパール	10,562	15.7%
4	ネパール	729	3.3%	スリランカ	3,177	4.7%
5	スリランカ	640	2.9%	台湾	2,625	3.9%
6	ベトナム	625	2.8%	韓国	2,543	3.8%
7	バングラデシュ	520	2.3%	ミャンマー	1,785	2.6%
8	タイ	295	1.3%	バングラデシュ	989	1.5%
9	ミャンマー	259	1.2%	インドネシア	868	1.3%
10	インドネシア	131	0.6%	モンゴル	511	0.8%
全体計		22,399		67,475		

(出所) 佐藤 (2019) : 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査結果」に基づく

2010年代半ばに非漢字圏出身の留学生が急増

2007年から2018年にかけて、ベトナム人留学生は41倍、ネパール人留学生は14倍に

非漢字圏出身の専修学校留学生急増の背景

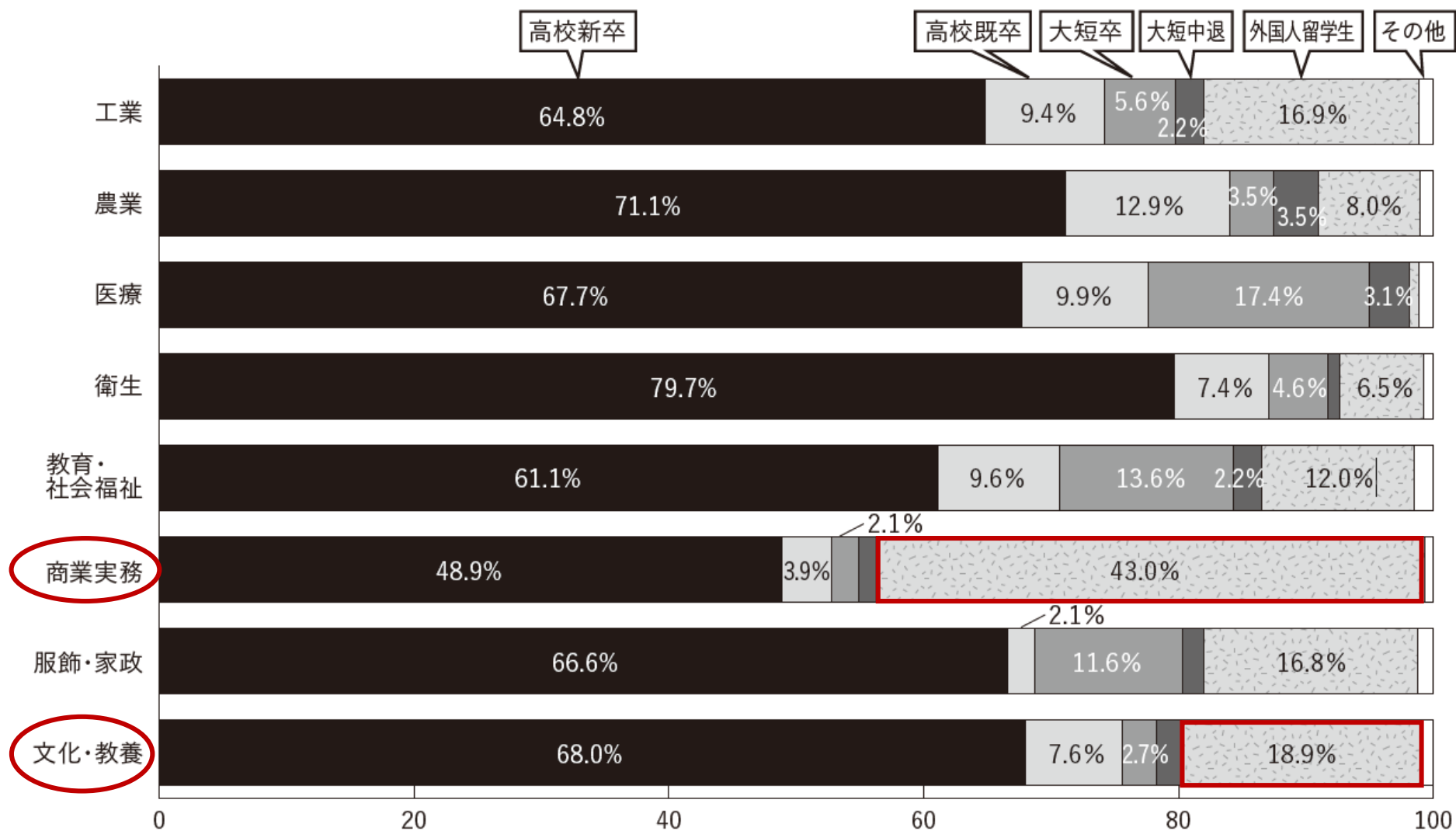
1. 東日本大震災後の日本語教育機関による非漢字圏諸国での留学生の積極的リクルート（2011年から18年にかけて日本語教育機関で学ぶベトナム人留学生は29倍、ネパール人留学生は9倍に）
2. 非漢字圏というハンディやアルバイト時間の長さによる日本語学習上の課題⇒日本語能力試験N2（日本語で授業を受けるため必要な最低レベル）に到達できない者が増加⇒入学選別性が比較的緩やかな専修学校に入学する者が増加
3. 専修学校専門課程は、大学（学部）に比べ、半分の期間で専門士資格が取れ、就職できるというメリットも

表2 日本語教育機関における卒業生進学先

	専修学校	大学院	大学	合計
ベトナム	5,018 80.0%	31 0.5%	1,033 16.5%	6,273 100.0%
ネパール	1,799 85.6%	10 0.5%	243 11.6%	2,101 100.0%
中国	3,300 36.1%	2,085 22.8%	3,640 39.8%	9,139 100.0%

出所：日本語教育振興協会
「令和元年度日本語教育機関実態調査」
加盟227校の回答

1-② 都内専門学校入学者の学歴（分野別）



出所：東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団2020「令和元年度専門学校各種学校調査統計資料」

商業実務、文化・教養分野などにおいて、留学生の割合が高い専門課程が増加

表3 日本語能力に関する資格(漢字圏・非漢字圏別、主な学種・課程別)

	日本語教育機関		専修学校		学部正規課程		大学院修士課程		大学院博士課程	
	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏	漢字圏	非漢字圏
J1プラス	0.4%	0.0%	1.5%	0.2%	0.7%	0.0%	1.0%	0.4%	1.5%	2.3%
J1	0.4%	0.6%	1.0%	0.2%	2.6%	0.3%	1.8%	1.3%	3.0%	1.1%
J2	1.2%	1.4%	2.1%	0.9%	1.7%	4.4%	0.6%	1.3%	3.0%	0.6%
J3	0.9%	0.6%	0.8%	0.9%	0.1%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	1.7%
J4	0.7%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
J5	0.7%	1.0%	0.2%	0.6%	0.3%	0.6%	0.0%	0.4%	0.5%	0.0%
N1	43.0%	3.2%	32.6%	4.7%	57.4%	30.3%	65.5%	19.7%	51.5%	4.5%
N2	32.7%	26.5%	38.3%	37.4%	22.9%	33.1%	18.5%	23.3%	10.4%	6.3%
N3	3.0%	25.7%	4.8%	19.9%	1.3%	6.4%	0.8%	4.0%	1.5%	2.8%
N4	1.2%	6.2%	0.8%	3.9%	0.1%	1.9%	0.0%	5.8%	0.5%	6.8%
N5	0.8%	12.9%	0.8%	6.9%	0.1%	2.2%	0.0%	3.6%	0.5%	5.7%
試験結果なし	15.1%	21.6%	16.6%	24.0%	12.4%	19.7%	11.8%	39.0%	27.7%	67.0%
小計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
N3以下＋結果なし	20.1%	66.4%	23.1%	54.7%	13.9%	30.3%	12.5%	52.5%	30.2%	82.4%
回答者数	767	721	481	537	1438	360	502	223	202	176

佐藤（2016）：日本学生支援機構「平成27年度私費外国人留学生生活実態調査結果」に基づく

専修学校の非漢字圏出身留学生で日本語能力試験N3以下または試験結果のない者が55%に上る

平成30年度専門学校各種学校調査統計資料

〔特別調査2〕 専門学校生の進学・就職に関する意識調査

東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団2019

回答者：都内の専修学校192校4,871人の教職員、調査時期：2018年11月

外国人留学生の受け入れに関する問題点や課題

< 商業実務分野 >

- 非漢字圏の学生が増え、修業年数（2年）内で就職可能なレベルの教育は困難であると感じる
- 日本語学校卒業時の日本語レベルと学習マナーが低下しており、日本人との合同授業実施が難しいケースが増えてきている

< 文化・教養分野 >

- 年々、留学生の日本語能力が低下している…留学生入学者が増加し続けることで「日本語を使わなくても何とかやっていける」留学生がいると思われ、更に日本語能力の低下が進んでいくのではないかと心配
- 専門学校入学後の日本語教育支援は難しい。日本語学校の学習期間と内容では、日本語の理解が不十分で授業についてこられなかったり、就職試験になかなか合格できないなどの弊害がある

「専門学校に在籍する留学生の実態調査報告書」

東京都専修学校各種学校協会2021

調査対象：都内の専修学校専門課程（日本語学科在籍者は除く）の留学生2760人（出身国：中国54.7%、ベトナム14.4%、ネパール2.4%）、調査期間：2020年11～12月

- 日本語能力：入学時はN1が全体の20.5%に過ぎなかったが、調査時点で33.3%に増加（N2は44.1%⇒46.5%）
ベトナム人、ネパール人学生は、読み書きに困難を感じる者が多い
- 日本語学習：学校内の日本語授業（36.7%）、インターネット（36.9%）
- 日本人と話す機会：学校やアルバイト先が多いが、「交流がなく、あまり人と話さない」という回答も
- 授業：1年生の27.5%、2～4年生の29.0%が「時々わからないことがある」、1年生の1.1%が「よくわからない」と回答
- アルバイト：ベトナム人学生の93.6%、ネパール人学生の96.9%が従事（中国人学生では38.0%にとどまる）

表4 留学生における日本就職希望者と日本就職した者の割合（学種・課程別）

	2008年			2019年		
	日本就職希望者割合(A)	日本就職者割合(B)	B/A	日本就職希望者割合(C)	日本就職者割合(D)	D/C
大学院 博士課程	49.4%	28.9%	0.59	56.3%	29.6%	0.53
大学院 修士課程	60.9%	31.4%	0.52	67.2%	33.7%	0.50
学部	66.0%	34.9%	0.53	70.5%	42.0%	0.60
短期大学	52.7%	18.8%	0.36	82.5%	60.9%	0.74
専修学校(専門課程)	61.3%	16.4%	0.27	75.9%	39.2%	0.52
高等教育機関平均	61.3%	25.3%	0.41	70.2%	36.9%	0.53

出所：日本就職希望者割合は日本学生支援機構「平成19年度・平成29年度私費外国人留学生生活実態調査結果」、卒業生中の日本就職者割合は日本学生支援機構「平成20年度・令和元年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」

2008年から2019年にかけて日本就職希望者の就職率は大学院以外で改善
 2019年：専修学校留学生は、学部留学生に比べ、就職希望者が多いが
 実際に就職できた者の割合は少ない

令和3年度専門学校各種学校調査統計資料

調査8 「専門課程」 留学生在籍調査

東京都専修学校各種学校協会・東京都私学財団2022

調査対象：都内の専修学校255校、調査期間：2021年6月

令和3年3月卒業の外国人留学生の日本国内での就職状況について

<商業実務分野>

- コロナ禍の影響でインバウンド系求人がほぼない状態で推移し、例年になく苦戦した。
- ホテルをはじめとした観光サービス業の分野であるため、コロナ禍の影響をもろに受け就職活動が非常に難航。特定技能（外食・介護等）に切り替えて就職した学生もいた。

<文化・教養分野>

- コロナ禍が長引いて、応募しても内定が取れず不採用通知が続いたため、卒業までに決まっていない学生は特定活動ビザで就職活動を継続している。
- コロナの状況の見通しが悪いため、日本での就職を諦めて帰国する学生（卒業生）が多かった。

コロナ禍により、日本での就職活動、就職にマイナスの影響を受けた留学生が多い

聞き取り調査結果

専修学校留学生7名（全員ベトナム人）（2022年1月）

- 3名がビジネス、4名が日越通訳・翻訳コース
- 学校では日本人学生と触れ合う機会は少ない
- アルバイトが日本語、日本人の考え方、働く文化、おもてなしについて学ぶ貴重な機会（2名は入学時にN2がなかったが、その後取得。2名は入学後にN1を取得）
- しかし、日本語力不足のため顧客に怒られることもあり、職種（新聞配達など）によっては日本語などの学びの機会が少ない

専修学校（商業実務）キャリアアドバイザー（2021年12月、22年2月、10月）

- 在留資格（技・人・国）の想定範囲が狭すぎる
- 求人側が必要以上に高い日本語力を要求
- 職業実践専門課程：留学生の日本語力が低い場合、企業側・学校側とも学生が「専門力」で就職することをあまり期待しておらず、連携プログラムにあまり力が入っていない

まとめ

1. 専修学校は日本で学ぶ留学生の3割近くを受け入れ、30万人計画達成の原動力となってきた。
2. 非漢字圏出身の日本語力が不足した学生の増加は、学校現場において、教育や就職指導上の課題となっている。
3. 非漢字圏出身者はアルバイト従事率が高いが、日本人と接し、日本語や「働く文化」について学ぶ機会ともなっている。
4. 専修学校留学生は学部留学生に比べ、日本就職希望者が多いが、実際に就職できた者の割合は低く、コロナ禍により就職が困難になった者も多い。
5. 職業実践専門課程を通じた専門力の養成においても、日本語力不足が課題となるケースがある。

参考文献

佐藤由利子（2016）「非漢字圏出身私費留学生のニーズと特徴-日本学生支援機構・私費留学生生活実態調査の分析結果から-」、『ウェブマガジン留学交流』12月号、Vol.69、1-16頁。
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2016/__icsFiles/afieldfile/2021/02/18/201612satoyuriko.pdf

佐藤由利子（2019）「留学生の多様化と留学動機／就職意識の変化-2007～2017年度の私費外国人留学生実態調査結果の分析から-」、『ウェブマガジン留学交流』2019年3月号、Vol.96、1-12頁。
https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2018/__icsFiles/afieldfile/2021/02/19/201903satoyuriko.pdf